

新年のご挨拶

鹿児島市薬剤師会 会長 谷口 欣平



新年、明けましておめでとうございます。
鹿児島市医師会の先生方には、お健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、私ども薬剤師会の会員が各面にわたりご協力をいただいておりますことに、心からのお礼と感謝を申し上げます。

昨年、正月早々に能登半島で大きな地震が発生して翌日には羽田空港での航空機事故と、相次いで痛ましい出来事がありました。能登地方では9月下旬には豪雨災害もあり、避難先で二重被災をされた方もおり、長引く不自由な生活を思うと大変心が痛く一刻も早い復旧を願っております。また、8月初旬には日向灘を震源とした大きな地震が発生し、南海トラフ地震に繋がるものではないかと一時身構えたものです。鹿児島市では震度5弱でしたが大きな揺れがあり、自然の驚異には戦くばかりで、改めて日頃の備えの大切さを感じたところです。

一方、国内の政治の世界では、突然の衆議院解散・総選挙と目まぐるしい動きがあり、与野党が伯仲する結果となりました。政策決定にあたっては流動的な面があるでしょうが、今後はさらに国民・生活者の声に耳を傾けてきめ細かな国政運営がされることを期待するところです。

また、アメリカ大統領選挙においては、“もしトラ”が現実のものとなり、我が国のみならず世界に大きな変化をもたらさそうです。2025年1月から2度目の4年間でスタートしましたが、“アメリカ・ファースト”，強いアメリカの復活を目指すだけでなく、世界の相互理解と融和にも影響力を発揮して後代

から素晴らしい大統領であったと言われる業績を残してほしいものです。

ところで、我が国における出生率は想定を超える速さで低下して少子・高齢社会は急速に進行しており、国においては、社会保障制度の持続可能な体制や安定的な医療・福祉サービスの提供体制の確立への取り組みに一層拍車がかかるのではないかと感じております。そのような中、厚生労働省が提示した「どこに住んでいても適切な医療・介護を安心して受けられる“地域包括ケアシステム”」の完成は今年が目標とされていますが、取り組みには未だ不十分な面があるように感じております。病気になった人への迅速な治療やケアは当然のこととは思いますが、セルフケアを前提として日常生活を続けられる仕組みづくりによる健康寿命の延長や、医療費の軽減、世界に誇り得る社会保障制度の持続が図られる取り組み等に私どもも多職種の方々との連携を一層深め、力を注いでまいりたいと考えております。このような観点から、昨年11月から市医師会の先生方のご協力をいただきながら共同で取り組んでいる大腸がん検査支援事業を更に進展させ、早期発見・早期治療に繋げることにより働く世代の両立支援の充実等にも取り組んでまいりたいと思っております。

近年、薬の調達が不安定なことから市医師会の先生方にはご迷惑をおかけしており、このことについては大変申し訳なく思っておりますが、私ども薬剤師会は日本薬剤師会を中心に国会や厚生労働省等に対して安定供給を強く働きかけているところです。粘り強く取

り組み、先生方の処方に応えられるよう努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。また、昨年12月2日から保険証の新規発行が停止し、マイナ保険証を使う流れが加速しました。医療DXの推進工程表に基づき、今後ますますこの流れが加速するものと思います。重複受診や処方を少しでも減らすことにより、適切な調剤や患者さんの健康管理、医療費の節減等が図られるものと考え、私ども市薬剤師会も積極的に医療DXへの対応、体制を整えているところです。市医師会の先生方と連携を取りながら患者さんの負担を減らし、市民の皆さまの安心・安全な生活に少しなりともお役に立ちたいと思っています。

さて、今年は“乙巳（きのと・み）”の年です。「巳」は、脱皮するたびに表面の傷が

治癒していくことから医療や治療、再生のシンボルともされ、「乙」は、「軋む」意ですが、柔軟性や協調性を象徴しており周囲との調和を保ちながら目標に進み、これまでの努力が実を結ぶと謂われているようです。2025年が正にそのような明るく活気に満ち、東西・南北の世界が調和を図りながら平和を謳歌する年になってほしいものです。

私ども市薬剤師会も医療三師会の一員として、先生方のご指導をいただきながらより良い医療の提供に努め、市民の皆さまの健康維持や福祉の向上等に取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

むすびに、市医師会の先生方のますますのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

